

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心をこめてひとりひとりを大切に」という法人理念については、4月に法人内での研修会があり全職員が確認している。また、年度の事業計画に基づいて、職員が個々に目標を立てて取り組んでいる。(上期・下期)	「心をこめてひとりひとりを大切に」という法人理念については、4月に法人内での研修会があり全職員が確認している。また、年度の事業計画に基づいて、職員が個々に目標を立てて取り組んでいる。(上期・下期)	法人全体の理念の他に各ユニットの年間目標を作り、フロアや個人ファイルの表紙に提示し、職員が常に意識できる工夫がされている。年度初めに理事長から法人の理念や事業説明があり全職員で確認している。朝会でその日の予定や利用者の意向を確認し、できる限り思いに寄り添えるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月第3水曜日の午後、サロン「縁」を開催して地域の方との交流を図っている。地域のボランティアさんも来て下さる。8月には流しそうめんを行い地域の子供さんたちも大勢参加してくれた。また、地域のお祭りへのお誘いもある。近所のお店や床屋、美容院、食堂に出掛けてたり出前をしてもらっている	毎月第3水曜日の午後、サロン「縁」を開催して地域の方との交流を図っている。地域のボランティアさんも来て下さる。8月には流しそうめんを行い地域の子供さんたちも大勢参加してくれた。また、地域のお祭りへのお誘いもある。近所のお店や床屋、美容院、食堂に出掛けてたり出前をもらっている	毎月第3水曜日、地域サロン「縁」を開催。オカリナ・大正琴・餅つき等利用者・地域の方・知人・趣味ボランティアの方達が集まり楽しいひと時を過ごしている。年々地域の方々との交流の場が増え今年も8月に「流しそうめん」を行ない大勢の子供たちの参加があり一段と盛り上がった。地域行事への積極的な参加や近所の馴染みのラーメン店や散歩を兼ねた買い物にも出かけ挨拶を交わす等、日頃から地域の方との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年11月より事業所として、地域交流室を活用し「認知症カフェとぶき」をオープンして地域の方に認知症の啓発活動を始めた。今後、認知症相談室も活用して頂けるように発信していく。	昨年11月より事業所として、地域交流室を活用し「認知症カフェとぶき」をオープンして地域の方に認知症の啓発活動を始めた。今後、認知症相談室も活用して頂けるように発信していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催して、事業内容や入居者様の活動の様子を報告している。運営推進会議のメンバーや御家族様より意見やアドバイスを頂いている	2か月に1回、運営推進会議を開催して、事業内容や入居者様の活動の様子を報告している。運営推進会議のメンバーや御家族様より意見やアドバイスを頂いている	2か月に1回開催、事業所の活動や職員研修等の報告を行ない参加者から意見・要望を受けている。今回は研修内容について質問があり、説明した。昨年11月認知症カフェがオープンし毎月1回開催している。老人会会長からの提案で「地域で優しい町づくり」の一環として「オレンジ講座」を開催することになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の長寿介護課・地域包括支援センターの職員が毎回参加して下さり、相談や協力をいただける関係づくりができています	運営推進会議には、市の長寿介護課・地域包括支援センターの職員が毎回参加して下さり、相談や協力をいただける関係づくりができています	市の介護保険事業連絡会には積極的に参加している。必要に応じて直接出向くか電話で相談している。困難事例への対応のアドバイスをもらったり、認知症カフェやオレンジ講座への協力もいただき、良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。スリーロックについて学ぶ中で、身体拘束について振り返りを行うと共に、特にスピーチロックについて取り組む	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。スリーロックについて学ぶ中で、身体拘束について振り返りを行うと共に、特にスピーチロックについて取り組む。	毎月法人本部で身体拘束についての研修会が行われ各グループの代表が出席、その結果を事業所のミーティングで話し合い、日々の振り返りを行なっている。「高齢者の想いに寄り添うケアを推進する為の手引き」「声の掛け方の共有」「やめようスリーロック」等具体例をあげ勉強会も行なっている。職員同士その都度注意できる環境であり、管理者も気づきを促す指導を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。身体拘束同様に意識を持ち取り組む	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。身体拘束同様に意識を持ち取り組む		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束、虐待防止同様に権利擁護について学ぶ機会をつくる 「高齢者の想いに寄り添うケアを推進するための手引き」を活用する	身体拘束、虐待防止同様に権利擁護について学ぶ機会をつくる 「高齢者の想いに寄り添うケアを推進するための手引き」を活用する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居については、都度説明を行い理解を得ている。また、重要事項変更等がある際は、説明して同意を得ている。入居時は本人にも出来る限り見学に来ていただき、ホームの様子を見て頂くようにしている	入退居については、都度説明を行い理解を得ている。また、重要事項変更等がある際は、説明して同意を得ている。入居時は本人にも出来る限り見学に来ていただき、ホームの様子を見て頂くようにしている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にカンファレンスを定期的に行い、意見や要望を確認している。ご家族様の面会も多いので、都度話をしている。また、苦情を伝えられるように連絡先を明確にしている。	定期的にカンファレンスを定期的に行い、意見や要望を確認している。ご家族様の面会も多いので、都度話をしている。また、苦情を伝えられるように連絡先を明確にしている。	家族の面会は1日2~3名と多い。面会時には職員から必ず声掛けし現状報告したり、半年ごとに家族カンファレンスを行い気づいたことを気軽に言っていた関係づくりができています。夏と冬の夕食時間の見直しや日課に沿った職員体制について話し合いを行なった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティングの中で出た意見や課題はリーダー会議にて職員の意見や提案を反映させている。また、「私の意見と希望」にて代表者との面接する機会がある	毎月ユニットミーティングの中で出た意見や課題はリーダー会議にて職員の意見や提案を反映させている。また、「私の意見と希望」にて代表者との面接する機会がある	各職員は、12月末に理事長と面接する機会がある。ユニットミーティングやリーダー会議で出た意見は管理者が書類に記入し、提出している。職員は思ったことが言いやすい環境であり早期解決事項は管理者と相談し対応している。勤務体制等では職員同士の自然なフォローもできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期において個人目標を立て、個々に面接を行っている	上期・下期において個人目標を立て、個々に面接を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会(全体研修とステップアップ研修)が毎月開催されている。事業所内での勉強会を実施している。外部研修にも行く機会を作りスキルアップを図っている。新人教育に於いてはプリセプターにてお互いに向上できるように取り組んでいる	法人内の勉強会(全体研修とステップアップ研修)が毎月開催されている。事業所内での勉強会を実施している。外部研修にも行く機会を作りスキルアップを図っている。新人教育に於いてはプリセプターにてお互いに向上できるように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会へ入会している。山梨県支部の研修会等に参加している。県のGH協会の研修に参加して相互訪問の活動ができるようにネットワークづくりをしていきたい	日本認知症GH協会へ入会している。山梨県支部の研修会等に参加している。県のGH協会の研修に参加して相互訪問の活動ができるようにネットワークづくりをしていきたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にお茶を飲みに来てもらい雰囲気慣れてもらうようにしている。入居時は特に不安が強いので声掛けをしながら、本人の言葉や表情の観察を記録に残し、職員間で情報の共有をしている	入居前にお茶を飲みに来てもらい雰囲気慣れてもらうようにしている。入居時は特に不安が強いので声掛けをしながら、本人の言葉や表情の観察を記録に残し、職員間で情報の共有をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をしていただきご家族様より話しを伺っている。ご家族様との信頼関係を構築できるように話しやすい雰囲気を心掛けている	入居前に見学をしていただきご家族様より話しを伺っている。ご家族様との信頼関係を構築できるように話しやすい雰囲気を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当を中心として、まずは暫定プランを作成して1か月後を目安にカンファレンスを行っている。ケアプランの内容は生活チェック表で毎日確認して、月の終わりにモニタリングを行いケアプランの見直しを行う	計画作成担当を中心として、まずは暫定プランを作成して1か月後を目安にカンファレンスを行っている。ケアプランの内容は生活チェック表で毎日確認して、月の終わりにモニタリングを行いケアプランの見直しを行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事が継続出来るように出来ることを見出し、役割が持てるように、入居者が主体であるということを基本に支援することに努めている	本人のできる事が継続出来るように出来ることを見出し、役割が持てるように、入居者が主体であるということを基本に支援することに努めている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会が多く、本人と家族との絆は大切にしている。ご家族がホームに来やすい雰囲気をつくり家族とのコミュニケーションを大切に連携を図りながら、ここにおいても家族の一員として過ごせるように支援している。また、ご家族と外出したり外泊する機会もある。	御家族様の面会が多く、本人と家族との絆は大切にしている。ご家族がホームに来やすい雰囲気をつくり家族とのコミュニケーションを大切に連携を図りながら、ここにおいても家族の一員として過ごせるように支援している。また、ご家族と外出したり外泊する機会もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご意向で、近所の食堂にご飯を食べに行く、馴染みの床屋さんに行く、買い物に行くなど個別に外出している。また、兄弟や知人の面会もある。	本人のご意向で、近所の食堂にご飯を食べに行く、馴染みの床屋さんに行く、買い物に行くなど個別に外出している。また、兄弟や知人の面会もある。	馴染みの関係を継続する為に美容院・外食・家に行く、敬老会に参加する。時々近所のラーメン店に行ったり、地域サロンに来た方と利用者との交流の機会をもうける等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝、朝会を行い一人一人が自己紹介を行いながら入居者同士の関係を深めている。また、食事の席を適宜調整しながら関わりが深められるように支援している。職員が随時橋渡しをしている	毎朝、朝会を行い一人一人が自己紹介を行いながら入居者同士の関係を深めている。また、食事の席を適宜調整しながら関わりが深められるように支援している。職員が随時橋渡しをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はなし	現在はなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から出た言葉や話をゆっくり丁寧に聴くことを大切にしている。本人がうまく言葉を出し出せない方には声掛けを多くして表情の観察をしている。職員間で情報交換を行っている。	本人から出た言葉や話をゆっくり丁寧に聴くことを大切にしている。本人がうまく言葉を出し出せない方には声掛けを多くして表情の観察をしている。職員間で情報交換を行っている。	朝会で利用者1人ひとりの自己紹介・日・曜日・季節などを話してもらい今日は何がしたいかなども聞き取り、できるだけ意向に沿えるように努めている。意思表示のできない方でもゆっくり対応し、表情や目の動きから汲み取るよう努めている。富士山を見に行ったり、近隣への外出も多く外気浴もできている。	
24		○これまでの暮らしの把握 本人が一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様より情報を得ている。今までできていた楽しみが継続できるように努めている。居室には馴染みの物を持ってきていただいている。	ご本人や家族様より情報を得ている。今までできていた楽しみが継続できるように努めている。居室には馴染みの物を持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活支援が出来るように、24時間軸のアセスメント用紙を見直して、毎月の評価やカンファレンス、ミーティングを通じて職員間で情報共有をしている。	24時間の生活支援が出来るように、24時間軸のアセスメント用紙を見直して、毎月の評価やカンファレンス、ミーティングを通じて職員間で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、計画作成担当と一緒に話し合い、看護やリハスタッフにも相談を含めた中でサービス計画を作成している。	本人、家族、職員、計画作成担当と一緒に話し合い、看護やリハスタッフにも相談を含めた中でサービス計画を作成している。	入居時に本人・家族の情報をもとに暫定プランを作成し、担当職員が生活チェック表を作成し評価を行う。本プランから3か月ごとに職員全員でモニタリングを行い、6か月ごとに家族カンファレンスも行い計画に反映している。入院等変化があった場合はリハビリやADL対応について訪問看護等と連携している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝夕の申し送りや日々の様子については個別の記録に残している。また、情報共有ノートを活用して職員間で情報共有をしている	毎日朝夕の申し送りや日々の様子については個別の記録に残している。また、情報共有ノートを活用して職員間で情報共有をしている		

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の皆さんの様子を見ながら1日の流れを確認して都度、状況に応じて柔軟な対応ができるようにご家族様とのコミュニケーションを図り対応している	その日の皆さんの様子を見ながら1日の流れを確認して都度、状況に応じて柔軟な対応ができるようにご家族様とのコミュニケーションを図り対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの店に出掛けたり、地域サロンを行う中で地域との繋がりを大切にしている。地域のボランティアさんを募集している	なじみの店に出掛けたり、地域サロンを行う中で地域との繋がりを大切にしている。地域のボランティアさんを募集している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに医療連携ができる協力診療所がある。定期受診時にはご家族様と情報を確認している。こちらで受診対応をしている方については、必要に応じてご家族様と主治医の面談が行えるように連携を図り、緊急時の対応については都度話し合いをしている	近くに医療連携ができる協力診療所がある。定期受診時にはご家族様と情報を確認している。こちらで受診対応をしている方については、必要に応じてご家族様と主治医の面談が行えるように連携を図り、緊急時の対応については都度話し合いをしている	馴染みのかかりつけ医は5名、原則受診は家族対応となっている。送迎だけ支援する方も1名いる。その際事業所からも情報提供を行い受診後の様子は家族から報告がある。処方箋は事業所で預かり協力診療所での受診の方と一緒に薬局で処方してらう。医師情報は職員全員で共有し、緊急時家族と医師との面談・看護師との連携も含め密にできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護による健康チェックがある。また、何かあればすぐに相談できる体制がある 夜間もオンコール体制があり何かあれば相談が出来る	週1回、訪問看護による健康チェックがある。また、何かあればすぐに相談できる体制がある 夜間もオンコール体制があり何かあれば相談が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院には病院のMSWとのやり取りを行っている。退院に向けては入院時の情報やサマリー等をいただき情報交換を行っている	入退院には病院のMSWとのやり取りを行っている。退院に向けては入院時の情報やサマリー等をいただき情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針をお伝えしている。ご家族カンファレンス時に看取りのご意向を確認している。その時期に入る時にご意向の再確認をしている	入居時に看取りの指針をお伝えしている。ご家族カンファレンス時に看取りのご意向を確認している。その時期に入る時にご意向の再確認をしている	入居時に看取りに関する指針を伝えている。看取りマニュアルがあり、重度化した場合は医師と家族・本体の看護師も含めた話し合いが行われ、家族に看取りの再確認を行い、看取りケアプランへ移行する。家族は自由に面会や付き添いを行うことができる。今まで7名の看取りを行いアフターカンファレンスも行なっている。看取り委員会により勉強会も行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応については法人内に委員会が設置しておりマニュアルがある。また、勉強会で学ぶ機会が設けられている。緊急時の対応については、連絡体制を作っている。事業所内にはAEDが設置されている。また、吸引器の使い方も勉強している	事故発生対応については法人内に委員会が設置しておりマニュアルがある。また、勉強会で学ぶ機会が設けられている。緊急時の対応については、連絡体制を作っている。事業所内にはAEDが設置されている。また、吸引器の使い方も勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。事業所内の火災訓練を年2回行っている。災害時の地域との協定を結び一時避難所として使用してもらう	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。事業所内の火災訓練を年2回行っている。災害時の地域との協定を結び一時避難所として使用してもらう	大規模災害対策委員会があり、事業所で合同の避難訓練を年2回実施している。(日中、夜間時の対応を想定)消防署は通報から約4分で到着できるとのこと。避難経路・非常ベル・コンセントのほこり確認など定期的に行なっている。地域と防災協定を結び一時避難所となっていることから地域の方の食料の備蓄も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に介護の基本姿勢とグループホームの倫理要綱を確認してもらっている。基本姿勢にある利用者の8大権利の中において、プライバシー保護については明確化されている	全職員に介護の基本姿勢とグループホームの倫理要綱を確認してもらっている。基本姿勢にある利用者の8大権利の中において、プライバシー保護については明確化されている	法人が行う接遇研修で基本を学び、介護の基本マニュアルを全職員が持ち、利用者の8大権利を認識、実践できているか、ミーティングで再確認している。同性介護、排泄時のさりげない声掛け(耳元で)等、人生の先輩、一人の人間として関わることを大切にしている。又、個人情報厳重に管理されている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、朝会において一人一人の本日の予定を聞いている。本人から言葉が出できるようにしている。また、何かする時は必ず本人に確認している	一人一人の思いや希望を確認している。本人からの言葉が出できるように声掛けを多くしている。また、何かする時は必ず本人に確認している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の朝会において、予定を確認しながら要望には出来る限り添える様に支援している	本人の言葉より想いを確認している。本人からの言葉が出できるように声掛けを多くしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容院や床屋に出掛けている。入浴は毎日入れるようになっているので、入りたい時に入れる体制がある。着替えについては、本人に選んでいただくように声を掛けている	定期的に馴染みの美容院や床屋に出掛けている。入浴は毎日入れるようになっているので、入りたい時に入れる体制がある。着替えについては、本人に選んでいただくように声を掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、職員と話しながら一緒に行うようにしている。食べたいものや好みの食材を聞き、献立やおやつに入れている。	食事の片付けは、職員と話しながら一緒に行うようにしている。本人の好みを大切にしている。嚥下状態に合わせた食事の提供をしている。	食事メニューは宅配業者が作成。食事内容の希望が出されるので昼食は発注を止め、希望に沿うことも月に何度かある。個別に馴染みのラーメン店に行ったり出前を取ることもある。差し入れの野菜等を利用したり、利用者が調理や盛り付け等を行い、できることを手伝っている。職員も同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材のカロリーやバランスにおいては献立表に記載がある。食事量や水分量については個々のチェック表に記入して確認している	食材のカロリーやバランスにおいては献立表に記載がある。食事量や水分量については個々のチェック表に記入して確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に合わせた口腔ケアを支援している。歯科の協力医があり口腔ケアの相談が出来る体制が整っている。個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている	毎食後に個々に合わせた口腔ケアを支援している。歯科の協力医があり口腔ケアの相談が出来る体制が整っている。個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認して声を掛けている。また、本人の言葉やサインをみてトイレ誘導をしている。排泄物品については都度検討をしている	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認して声を掛けている。また、本人の言葉やサインをみてトイレ誘導をしている。排泄物品については都度検討をしている	排泄チェック表からパターンを確認し支援している。布(ボイズパンツ)パンツ4名・オムツ3名・それ以外の方はリハビリパンツ・パット使用。各居室にトイレがある。オムツ以外の方は日中その方に合わせたトイレ誘導を行ない、トイレでの排泄を支援している。オムツ対応の方も1名トイレでの排泄を検討中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認している。看護師や主治医に相談して指示をいただいている。毎日の体操で身体を動かしたり、食べ物や飲み物で工夫している	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認している。看護師や主治医に相談して指示をいただいている。毎日の体操で身体を動かしたり、食べ物や飲み物で工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴は可能であるので希望に添える様になっている。また、入浴の際は本人に必ず確認している。個々の状態に応じて清拭や足浴を行っている	毎日の入浴は可能であるので希望に添える様になっている。また、入浴の際は本人に必ず確認している。個々の状態に応じて清拭や足浴を行っている	入浴はいつでも希望に添った入浴ができる体制が整っている。各ユニットの浴槽が異なり片方は檜でできて木の香りが楽しめる温泉に行ったような気分になれる。入浴を嫌がる人は気分を変えるため檜の浴槽を勧め、介護者や時間を変える等、柔軟な対応を心掛け、気持ちよく入浴できるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人一人の24時間の状況を確認しながら休息していただくようにしている。朝起きる時間や寝る時間は個々に合わせている。日中も体調を見ながら休憩時間を作る。夜間の居室の明るさについては本人の意向や状態に合わせている	1人一人の24時間の状況を確認しながら休息していただくようにしている。朝起きる時間や寝る時間は個々に合わせている。なかなか寝れない方は職員とリビングで過ごされている。夜間の居室の明るさについては本人の意向や状態に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬など薬は管理をしている。個人ファイルに処方内容がファイルされているので都度確認が出来るようになっている。薬の相談は主治医に都度している。体調の観察は毎日行い、少しの変化に気づくように努めている	内服薬など薬は管理をしている。個人ファイルに処方内容がファイルされているので都度確認が出来るようになっている。薬の相談は主治医に都度している。体調の観察は毎日行い、少しの変化に気づくように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の今までしてきた得意な事やできることを継続できるように担当職員が中心となり見出し出している。外に出掛ける機会を多くして気分転換が出来る様にしている。また、季節の行事やドライブなど外出をしている	本人の今までしてきた得意な事やできることを継続できるように担当職員が中心となり見出し出している。外に出掛ける機会を多くして気分転換が出来る様にしている。また、季節の行事やドライブなど外出をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えるように支援している。本人の要望はご家族様に伝え、こちらでの対応が出来ない場合はご家族様に協力をお願いしている	希望に添えるように支援している。本人の要望はご家族様に伝え、こちらでの対応が出来ない場合はご家族様に協力をお願いしている	利用者一人ひとりのその日の希望に添って個別支援を心掛けている。全員一緒での外出は難しく希望者を募ってドライブで富士山を見に行く・コンサートを聴きに行く、家族の協力を得て紅葉見物・初詣等交代で行っている。地域の敬老会に友人の誘いで参加した利用者もいる。日頃から、散歩・買い物等の外出の機会を多くし、外気浴を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたいものがある時は個々の意向に沿い支払いを支援している。個人の預かり金は出納帳で定期的報告している	買いたいものがある時は個々の意向に沿い支払いを支援している。個人の預かり金は出納帳で管理してご家族様に定期的に報告している。お金を自分で所持している方がいるので確認している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望の時は都度対応、支援している。ハガキや手紙が来た時は一緒に確認している	電話を掛けたい希望の時は都度対応、支援している。本人の想いを書き留めておきご家族様に見せている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については、温度調整や光の調整を皆さんに確認しながらしている。テレビの音量や職員の声の大きさにも気をつけて居心地良く過ごせるように配慮している	共有空間については、温度調整や光の調整を皆さんに確認しながらしている。テレビの音量や職員の声の大きさにも気をつけて居心地良く過ごせるように配慮している	共用空間のフロアーの窓からは甲府盆地が眺められ、特に夜景が素晴らしいとの事。さらに石和の花火大会はベランダからよく見え利用者がとても喜び楽しんでいる。窓際にあるソファは日光浴するのに最適である。椅子の高さ調節ができ、テーブルは移動式で時々その場の雰囲気と利用者の関係を考慮した配置換えも行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心して座れる場所を確認している。テーブルの配置や座る場所は本人の気持ちを尊重して工夫している	安心して座れる場所を確認している。テーブルの配置や座る場所は本人の気持ちを尊重して工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた者や馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。本人が安心して過ごせるように、本人とご家族様に相談しながら工夫している	入居時には使い慣れた者や馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。本人が安心して過ごせるように、本人とご家族様に相談しながら工夫している	居室にはトイレ・洗面台・クーラー・ベッド・防火カーテンが備え付けてある。各居室には使い慣れた家具やテーブル・タンス・仏壇等を持ち込み、家族写真等も飾ってあり安心してくつろげるその人なりの空間となっている。夫婦で利用される場合の配慮もあり、居心地の良い空間で生活できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の「できること」や「こだわり」に着眼点を置いている。出来る事を見い出して「できること」が継続できるように見守りや声掛けをして支援している	本人の「できること」に着眼点を置いている。出来る事を見い出して「できること」が継続できるように見守りや声掛けをして支援している		